

# 継続的支援訴え

## AMMDA インドから帰国 派遣チーム

インド西部大地震で被災者の緊急救援に当たった国際医療ボランティア

団体AMMDA（本部・岡山市榑津）の三宅和久医師（三宅）同市より支援チーム

五人が、十三日までに帰国した。

三宅医師は、一月二十六日の地震発生直後の同二十八日に出発し、被害の大きいアンジャールなどで

診療活動を行い、十一日に成田空港へ帰着。岡山市の小平雄一調整員（三宅）ら四人は一日に岡山市空港から航空機で現地へ向かい、アメリカメダパードなど被災地

数カ所で救援物資を分配、十二日に関西空港に到着した。

三宅医師らは十二日、関西空港で記者会見し、被災地の状況を報告。「現地は夜間の冷え込みが厳しいが、余震への不安から建物の中に入らず、眠れないと訴える被災者も多い。物心両面での継続的な支援が必要」などと話し

た。

AMMDAは二十四日午後一時半から岡山市天神町の同市立オリエント美術館で国際ネットワークセミナーを開き、三宅医師らと支援活動に参加した各ボランティア団体代表者、ケニアでの開発プロジェクトを終えて帰国した群馬県出身の林信秀調整員（三宅）がそれぞれ活動を報告する。